



山桜の里 戸赤

いの体制として自主防災組織を作ることにしました。

災害に備え集落内に助け合

財政難の折、定期預金を取り崩して一般経費をまかなった平成二十六年年度決算など審議した区総会は、三月十五日午前九時から十八人出席二人欠席協力世帯新年度から一戸増で六戸で開催され、全議案原案可決されました。入山券販売報償は新年度から廃止されました。生産組合会計は状況により一般会計へ繰り入れ役立てることが申し合わされ、また、



自主防災組織の立ち上げも実現へ

戸赤区総会

年度	会議		宿泊		イベント		見学		その他(体験)		計		写真館
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	
	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	単年累計	
18	4	49	25	191	4	341	8	196	20	238	61	1,015	520
19	2	37	72	181	2	81	2	10	4	24	82	375	459
20	3	50	37	256	2	163	6	143	2	26	50	627	295
21	2	38	31	142	1	45	2	30	0	0	282	255	290
22	3	65	17	208	0	0	1	11	3	29	66	350	215
23	0	0	16	155	0	0	0	0	0	0	348	155	72
24	1	34	6	38	0	0	0	0	3	32	82	154	142
25	0	0	11	81	0	0	0	0	9	41	331	412	100
26	0	0	5	63	0	0	0	0	6	117	180	3,523	175

年度	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	計	累計
18														
19	143	385	792	233	262	131	182	244	156	134	102	121	2,885	2,885
20	145	332	461	303	282	202	229	318	123	76	91	62	2,624	5,509
21	104	390	702	319	201	167	249	647	338	109	53	96	3,375	8,884
22	104	285	1,167	1,450	177	166	147	223	93	34	16	27	3,889	12,773
23	41	98	498	145	123	54	75	225	143	15	16	6	1,439	14,212
24	21	222	650	120	225	59	51	230	183	14	12	17	1,804	16,016
25	47	185	307	127	156	155	96	193	87	82	23	20	1,478	17,494
26	52	267	554	186	153	167	170	202	173	17	55	56	2,052	19,546

【木地の学習No.53】…鶯ちゃ馬にて若松へ送られた木地は、帰り荷は米、味噌等を積んできたものであった。木地を送り出したり、食糧等の必要物資を木地小屋へ上げたりする仕送り人がいて、木地の売金と食糧等の買金を差引きした。通常荷物の輸送は宿駅ごとに荷を積み換えるのであるが、鶯ちゃ馬は積み換えずに付け通すことである。そうすることによって輸送の日数を短縮できるし、荷の傷みも少ないという利点があった。宿駅の経営は、荷物の手数料等によって成り立っていたのであり、鶯ちゃ馬は目の敵であったが、農産物の生産性の低い御蔵入領の農村にとって、鶯ちゃ馬による収入は欠かすことのできないものであった。文化六(1809)年の書上げには「針生材木地小屋販米百俵分」、翌七年も同じ100俵分を若松から買入れている。100俵を石数に換算すると40石になり、針生木地の家族は40人前後、五、六軒であったと推定される。木地と仕送りの差引きというような江戸時代の帳面は、会津側では発見されていない。次の文書は会津藩預り地、栃木県藤原町上三依の仕送り人であった家に残されたものである。仕送りを受けた銀右衛門が文化十一年当時居住した山は、上三依か横川の山であろうと思われる。後に彼は館岩村へ移っている。仕送り品を拾い出してみると、「米、味噌、塩、鯉節、糀、水油、髪結油、元結、お茶、酒、たばこ、つけ木、麻、木綿、針、紙、らお、キセル、線香、鮫皮」等、ざっと挙げただけでもこれだけの物がある。〔会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より〕(つづく)〕

学校前の工事がこの夏の体験受入れ時期に影響するのではないかなど
などの話題も出された総会の慰労会。



39役員会・会計監査



入山券販売功労者5人へ報償(次年度から廃止)



五位 星光美さん

四位 星隆雄さん

三位 渡部利男さん

二位 小椋利幸さん

一位 室井正司さん



やまざくら学校前河川と道路改良の様子(27.3.22)

「広い道、カーブ
はゆるやかに、」
期待の大きい工事進行中



工事開始直後

(ストーリー性のある村づくりのために【No.22】・下郷町史 南会津では大川や伊南川・只見川の両岸に接する山麓から離れた河岸段丘に立地する本町の栗林・湯野上遺跡、田島の寺前・上ノ台遺跡、館岩の松ヶ原・岩窓遺跡、伊南堂遺跡・只見の館ノ川遺跡などはこの時代に営まれた比較的規模の大きな遺跡である。これに続く後期以降は、気温の低下が認められ、本町の遺跡の一部は中期の立地で継続するものの、南会津では多くの場合、早期・前期の立地に近い山間部にも進出しているようである。これも環境の変化が関係しているものと思われる。 沼沢火山の噴火と遺跡 火山の噴火による環境の悪化はすでに天明年間の浅間山や明治の磐梯山の例で明らかであるが、それよりはるかに規模の大きい沼沢の噴火はどうだったであろうか。浅間山の噴火が関東・東北の全天を覆って寒冷化を助長した天明の飢饉では、この南会津地方にまで噴出物が降りそそいだ。…沼沢の火山灰は冑宮西遺跡では三層確認でき、縄文期末期から中期初頭にいかけて噴火したと考えられている。…沼沢火山の火山灰は主に高田より坂下町にかけて確認でき、沼沢の噴火のあった金山町では縄文早期・前期の遺跡は確認されていないようで、…山都町では沼沢火山の噴出物に厚く覆われており、遺跡の有無を容易に確認できないために遺跡が少ないとしている。